

成果2 11世紀後半の白磁と土器が出土

A-2区南部の土坑1(東西18.0m、南北5.0m以上、深さ0.7m)と、A-2区南東隅の土坑2(東西4.6m以上、南北4.7m以上、深さ0.2m)、B区の堆積層から、11世紀後半の白磁や土器が出土しました(第3図、写真3・4)。白磁は中国から輸入した高級食器で、器種は碗と皿です。小破片ではありますが、出土例が少なく、貴重です。土器は、口径8cm、高さ2cm程の小型の皿です。

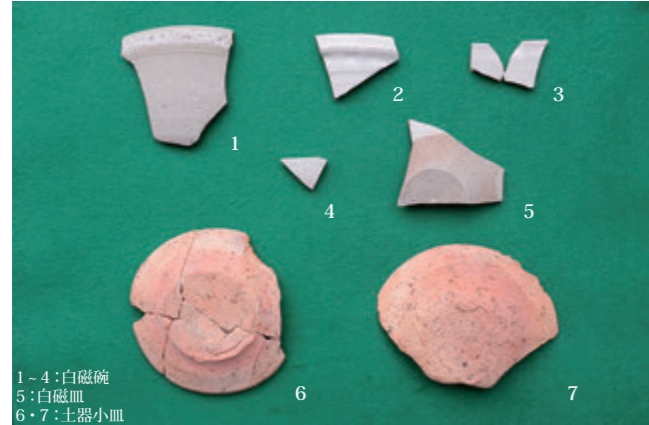


写真3 白磁と土器(縮尺任意)



写真4 土坑1断面(西から)

まとめ

1 政庁の北側で掘立柱建物を発見しました

「政庁北方建物」よりさらに北西側に、大型の建物の分布が広がることが分かりました。今回見つかった建物も政庁に近い位置にあることから、政庁と何らかの関係を持った施設である可能性があります。

2 11世紀後半の白磁と土器が出土しました

白磁は中国産の高級品で貴重な出土例です。多賀城はこれまでの調査で11世紀前半まで機能していたことが判明していますが、それ以降の状況についてはよく分かっていません。そのため、出土した白磁と土器は、この時期の多賀城の姿を明らかにする際の手掛かりになると考えられます。

多賀城の変遷

政庁第Ⅰ期:創建(724年頃)～大改修(8世紀中頃) 政庁第Ⅱ期:大改修(8世紀中頃)～火事(780年)
政庁第Ⅲ期:火事の復旧・整備(780年)～地震(869年) 政庁第Ⅳ期:地震の復興(869年)～11世紀前半

調査要項

所在地:宮城県多賀城市市川字大畑地内
調査指導:多賀城跡調査研究委員会(委員長 佐藤 信)
調査主体:宮城県教育委員会(教育長 伊東昭代)
調査担当:宮城県多賀城跡調査研究所(所長 高橋栄一)
調査協力:多賀城市教育委員会
調査員:高橋栄一・白崎恵介・村上裕次・初鹿野博之・高橋 透・下山貴生
調査期間:令和2年5月21日～10月26日(予定)
調査面積:約570㎡



宮城県多賀城跡調査研究所
〒985-0862 宮城県多賀城市高崎1-22-1
TEL:022-368-0102
FAX:022-368-0104
<http://www.thm.pref.miyagi.jp/kenkyusyo/>

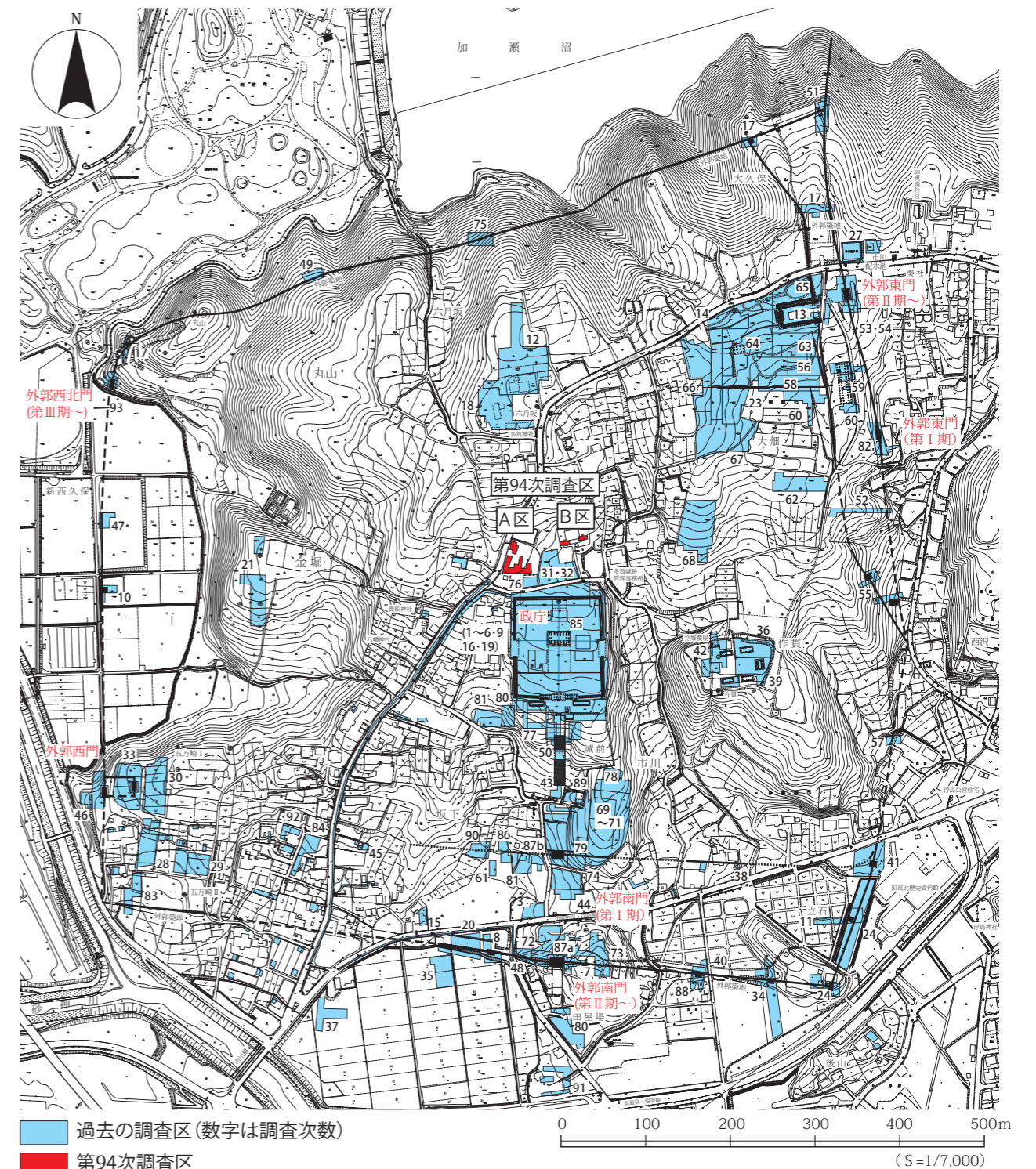


多賀城跡

第94次調査現地説明会
令和2年10月17日(土)
午前10:30～12:00
午後1:30～3:00

はじめに

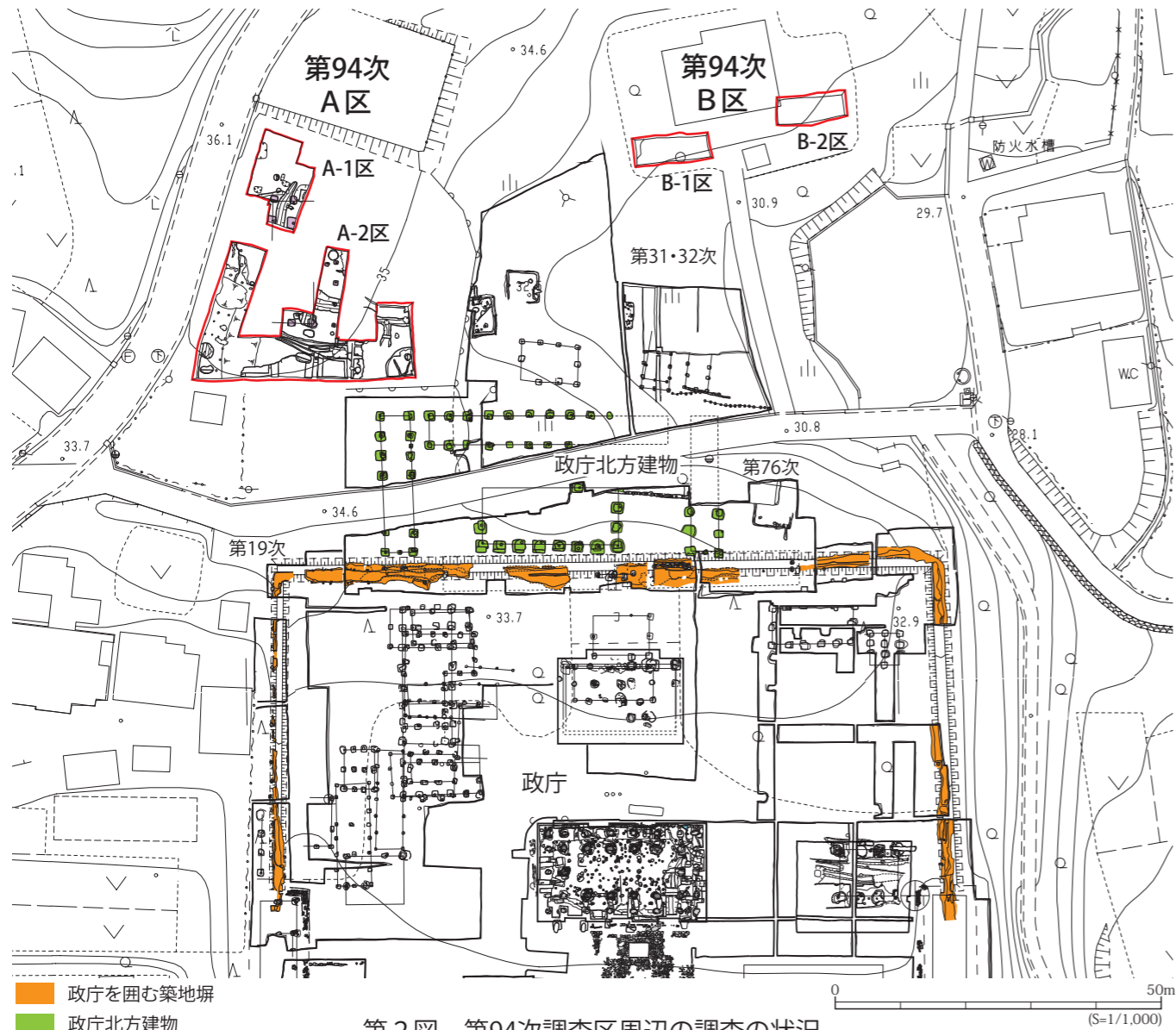
宮城県多賀城跡調査研究所では、昭和44年以来、特別史跡多賀城跡の発掘調査を計画的に実施し、遺跡の実態解明に向けた研究を進めています。今年度は、多賀城市が多賀城創建1300年記念の一環として、多目的広場の整備を予定している、多賀城政庁北側の政庁地区北方を対象に、第94次調査を実施しています(第1図)。今回の調査の目的は、政庁北側の遺構の分布や構成等を把握することです。



第1図 第94次調査区の位置

周辺の調査

政庁地区北方の調査はこれまで4次にわたって行なわれており、政庁第Ⅲ期(780～869年)以降に掘立柱建物や竪穴建物などの遺構が確認されるようになること、政庁第Ⅳ期(869年～11世紀前半)には政庁と一体的に機能した大型の掘立柱建物群「政庁北方建物」が認められるなど、政庁と密接な関係を持つ地区であることが判明しています(第2図)。



第2図 第94次調査区周辺の調査の状況

調査成果

調査地点はA区とB区の2ヶ所で、政庁正殿から北に約90～110mの位置にあります。A区は政庁北側の東から西に入る深い沢に面した丘陵上に、B区は丘陵から沢に向かう南斜面に立地しています(第2図、写真1)。

発見した遺構には古代とそれより新しいものがあります。古代の遺構は、掘立柱建物、柱列、竪穴建物、土坑、溝、柱穴で(第3図)、出土遺物は、白磁、緑釉陶器、灰釉陶器、土器、瓦、土製品、鉄製品、鉄滓です。古代より新しい遺構は、井戸、土坑、溝、自然流路です(第3図)。

今回の調査の主な成果としては、次の2点があります。



写真1 第94次調査区遠景(南から)

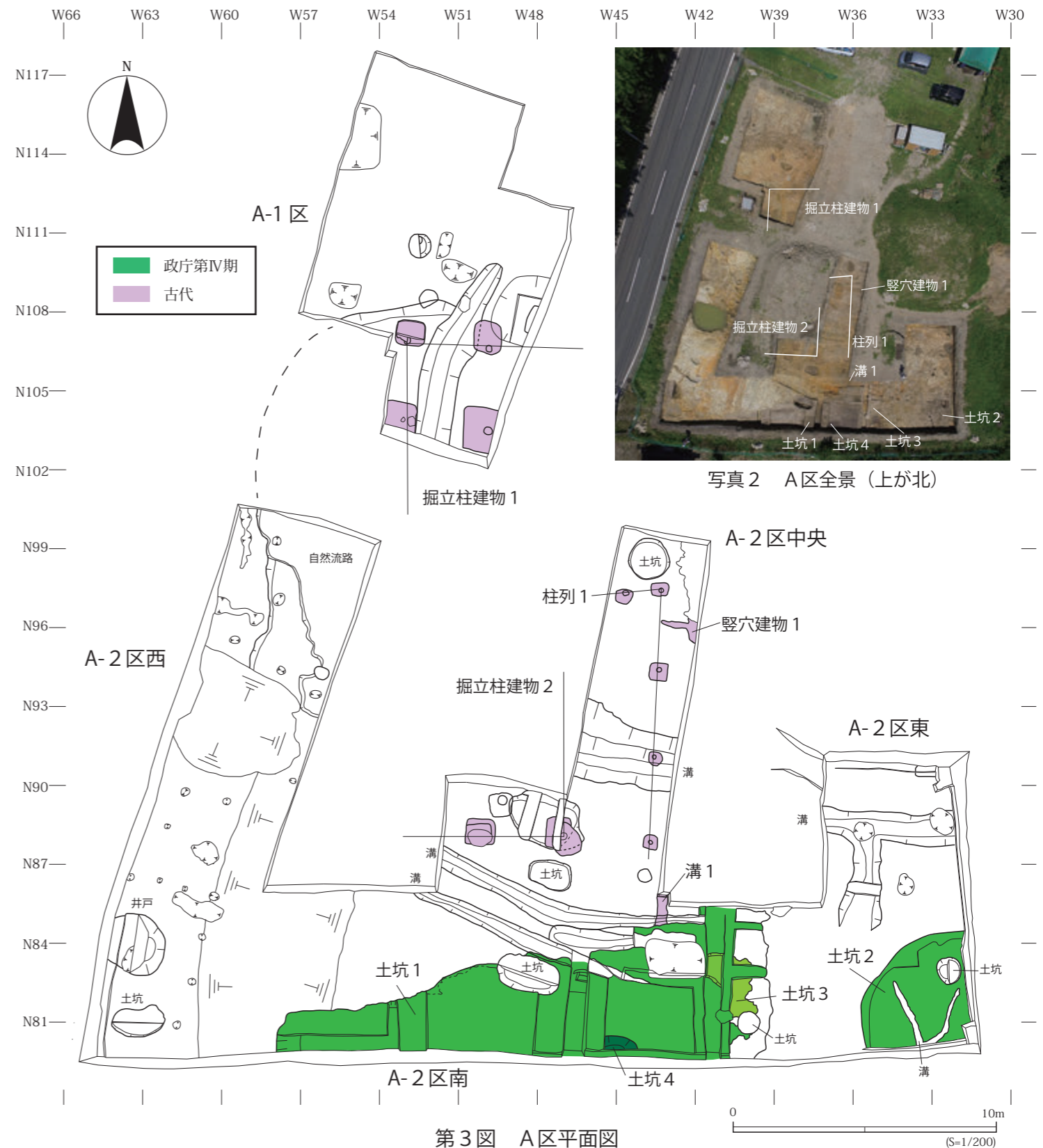
成果1 掘立柱建物を発見

A区で掘立柱建物を2棟発見しました(第3図)。どちらも一部の確認ですが、東西・南北ともに1間以上と推定されます。

掘立柱建物1では4個の柱穴を確認しました。柱穴は一辺1.2～1.6mの長方形で、柱は直径25cm程です。柱と柱の距離(柱間)が約3mあります。建物の西辺は、政庁西辺の築地塀の北側延長線上に位置します。

掘立柱建物2では2個の柱穴を確認しました。柱穴は新旧2時期あり、建物は一度建て替えられています。柱穴は新旧ともに一辺1.0m前後の長方形です。柱は抜き取られていましたが、推定される柱の位置で測ると柱間は約3mあります。

掘立柱建物1と2は柱穴や柱間の規模から大型の建物であると推定されます。また、建物の方向や柱間、柱穴の埋土の特徴が類似しており、同時期あるいは同一の建物の可能性があります。



第3図 A区平面図

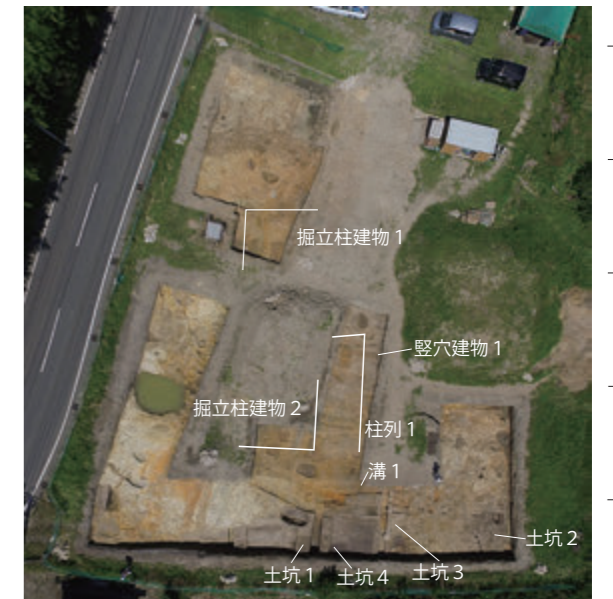


写真2 A区全景(上が北)